

原市場の魅力 「昔を語る会」第一回

原市場東自治会長 池田

2015年12月12日(土)

出席者：14名(自治会三役含)

地元の魅力を発掘し将来に向けて施策を考えるには皆さんの力が必要です。私たちが住んでいる地域に関する由来・昔話・名所紹介など、身近な話題を取り上げホームページに掲載してきました。

地元の四季を感じられる風景、金山・房ヶ谷戸・曲竹各地域の見どころなど季節にあわせて撮影し記憶に残せる原市場の魅力を写真で紹介。

地区の歴史を探求することで地元の良さをあらためて感じ、視る事で地元への愛着がでる地元の魅力を発掘すべく原市場地区の概要、地元の歴史や風土記を洗い出してきました。

また、エコツアー「原市場の鉄文化を訪ねて」に参加、タタラ場の痕跡著書を連載掲載させて頂き地元の鍛冶文化を知ることができた。

金山・房ヶ谷戸・曲竹など地名の由来と数多くの歴史資料探索し掲載してみて、徐々に昔からの原市場の姿見えてきたように思えます。

しかし、原市場に暮らしていると地元の歴史など気に留める事も少なく郷土への興味、昔からの文化の大切さをも薄くなっているように感じておりました。将来を見据えて、有志の方々参加頂き昔を語りながら今後を探る「昔を語る会」。具体的には、昔を知る人に集まってもらって、雑談形式で昔を思い出してよき時代の地元の魅力を引き出していく内容です。

第1回は少人数の年配者と興味ある有志の方々のお話をお聞きします。

まずは、・紙漉き(飯能の紙)・お蚕(給桑、まゆかき機織)・筏流し・焼物・茶摘み
・食物(麦、うどん、地場野菜栽培)・水車(脱穀)・西川材などなんでも結構。

今後のいくえ(方向性)として地域の活性化に主眼をおき、力が湧く様な地域の良いところを洗い出していきます。

原市場地区まちづくり活動

- ・四季を感じる歩こう会
- ・花のあるまちづくり
- ・蛍の里づくり
- ・木の文化を伝える会
- ・いきいき原市場まつり
- ・原市場いきいき広場管理
- ・子ども達と原市場を元気にする会

原市場地区社協による活動

- ・見守り活動
- ・お食事サービス事業
- ・サロン活動
- ・訪問活動
- 他

山間地域振興

<参考> 飯能市総合進行計画における山間地域振興とは

- ・市民・事業者・NPO・大学・行政等が連携・協働し、東京圏や他市との交流を見据えて「じゃがいも・のらぼう街道」づくりなどにより、地場産農作物等を使った料理や食の提供、物産品の販売などの地域ビジネスの振興。
- ・山間地域の生活スタイルや原風景をアピールする取組、地域の魅力スポットへの観光振興、公共施設等の有効活用や空き家の活用など、交流創出による山間地域への人の流れを創出し、自立活力ある地域づくり。

原市場東自治会ではホームページ運用による、情報伝達及び広報活動とともに新たな取り組みとして「昔を語る会」にてふるさとの良さを聞くをスタート。

まずは

- ・歴代自治会長と役員を紹介、平成3年までは選挙にて選出、平成4年から現在と同様の三地区持ち回りになる。選挙方式では総会で各地区3人を投票で決めた及び参加者多数集まったことなど、有志の方から説明。
現在の総会参加者が少なくなっている。
- ・地区会員数、金山地区85軒、房ヶ谷戸39軒、曲竹75軒 計199軒
年配者が多くなり高齢化進んできた。
- ・方言について：おらがほうの標準語 第1回～3回を紹介
年配者には懐かしい言葉で話はずむ、普通に話していたが殆ど聞かれない
とんちんかんの意味はかじやのとんてんかんから出た言葉と知る。
コジュケイは滅多に姿見えないが、地区で視れる。
鳴き声は「こっちこい、こっちこい」「ぎゅちょほい」と違いがある。
地元の行事で・とうかんや・天神講・おしら講など昔を語る事ができた。

原市場東ホームページは年配者の方々は見る機会が少ないので概要を説明。

スケジュールで行事のお知らせ、地区活動、メニューがあり閲覧版はいつでも見れる、原市場だよりでは近況情報を出している、地域の活性化で「地元の魅力」で各地域の歴史を中心に掲載、会員が見れる(紙以外)でも活用してほしい、若い人にも利用を広げたい。

地名に残るタタラ場の痕跡など戸谷氏からこの地域は歴史が古いことが説明。

房ヶ谷戸の五社神社、金山の聖天淵、歓喜天など貴重な物が多く存在。

日影郷は赤沢を表し、平安期ひかりは影(月影)、日の光がもっともあたる等地名が解らなくなっている。

房ヶ谷戸の西光寺は阿弥陀仏を祀っているが長光寺に預けている。

金山の叶神社は長福寺という山寺、金亀館は長福寺という。

<参考>あらたな取り組みへの一歩として原市場には長い歴史と文化、明治以降の産業など時代に沿った変化があると思われ、飯能市のほぼ中心に位置する原市場は南高麗、吾野、東吾野、名栗と共に広大な森林とその流れる清らかな河川など、自然環境にも恵まれ各地域における暮らしも、これまでの歴史・文化などからの特色のある風土があります。眠っている昔の産業、入間川(名栗川)でつなぐ飯能から原市場を経由し名栗までの観光の魅力を育て元気なまちづくりを進めて行きたいと考えております。

水と緑を生かしたまち、生きがいが生まれる魅力あるふるさと、子供たちが夢をもてる明るい未来、世代を越えて自立できることが重要です。

休憩も兼ねて、年配者が多く参加されたので、他地区会長情報シルバー川柳を楽しむ、かた、詐欺電話多発しているので引っかけられない事を話す。

昔の産業 お蚕(給桑,まゆかき機織)など豊かさが見える昔を知りたい。

西村一男氏、倉掛一男氏の著書より郷土資料を参考に話しを進める。

- ・筏流しは増水(ダムを作り水を溜めることもある)した時に流し下流までまとめて流す。山より木を下ろすことは大変な事業、名栗郷土館に展示あり、寄居の水車展示、玉淀川の博物館(荒川/入間川)にも貴重な展示が多くある。
- ・お蚕(給桑,まゆかき機織)、昔は生活の一部で二階でお蚕していた(複数同調)現在は道具などなにも残っていない。お蚕は手間がかかり日/4回桑を与えるまゆ玉、木に餅つけて焼く。
- ・ユリの栽培が盛んでよく売れ(食味よく旨い)産業としてなりたった。山ユリもたくさんあったが現在は殆ど見られない

名栗と飯能が合併したら原市場が通過点になっている、過疎化が進んでいるので活性化するには、若い人・子ども達とのコラボ、キッズウォーキング参加多く地元を探索するなど子供と親達が楽しんでいる。

原市場をアピールで地区入口に看板(例えば、ようこそ原市場)設置、資金がない。

昔の本道(山道)には地元の良さが沢山ある、自然、食文化、名栗湖。

中藤地区は朝顔市などで販売成功している、魅力の中で苔コケの販売など計画鉢植え付・黒い苔、川の石付着、色々な種類があり魅力はありそう。

県道の狭い場所が多くアクセスに問題ある、危険箇所改善を優先してほしい。

各所で鹿の出没が多い、日本カモシカも出た。鶴鳴館裏山で日中にでた。

鹿を地元の名産(食)に出来ないか、コンスタントに供給・地主・販売先・猟師との繋がり等の課題が多くある。

イノシシ料理は美味しいが、現在は農作物被害大でイノシシが畑に入り掘(水路)を破壊し水路決壊し畑が使用不可となってしまった場所もある。

地名の特徴、原市場地区は入間川と中藤川を中にして、周囲をすべて山で囲まれている関係で、山間部特有の地形から名付けられた地名が多い。

390余りの小字名から上位10は、1.くぼ(久保、窪) 2.いり(入) 3.さわ(沢) 4.やま(山) 5.さす(指) 6.うえ、かみ(上) 7.がやと(ヶ谷戸) 7.たき(滝) 7.はら(原) 10.と(戸) 10.した、しも(下)

・さす(指)：焼きはたをしていた場所

・いり(入) さわ(沢)：小さなさわ、どこでも名前を全て付いている

西光寺の板碑：鎌倉時代12年 有力豪族により作られた、長瀬リョクエン岩材鎮魂のため板碑は日本国中で製作された、西光寺の板碑ほど巨大な物はない。

金山金亀館の歓喜天(鉄製・木製)、仏像は貴重な文化財である。

小瀬戸地区の観音堂/歓喜寺も貴重なものと推測出来る。

・紙漉きについて、江戸末期～、現在は石倉地区で画廊及び夫婦で紙漉きされており、地元の魅力として見学検討。

原市場ちくの昔ばなしもあり探查中。

原市場の魅力 「昔を語る会」第一回にお集まり頂いた14名の方々は、地元が好きでどうすれば、地区活性化できるかを真剣に話あって頂きました。

収入があれば仕事に対する対価があれば、それをどうやって進めるかです。

原市場地区社協による活動でちょっとづつの会の活動紹介がありました。

・一人住まいの方：ドアー修理したがニーズはあるが、知らない人が多い。

他地区でも時間対価、年会費で何回でも頼める。

今までは地域の問題を話し合うだけで、具体的な進展、行動がない。

ルール決めが大事、市民会議→プラン→実際に動ける人→旗振り役

皆で話し合っていく場が必要、噛み砕いて。

次年度にも継続していきたい、次期役員に引き継ぐ事ができればいい。

旗振りでなく実行者を、地区で何人か選出も案である。

仮称「昔を語る会」として多くのお話をして頂きました。昔の産業をネタに活性化を考えていましたが、歴史に興味をもって貰う事とは別に、原市場に住んでよかったと思う様な活動にしたいと、改めて感じました。

貴重なご意見ありがとうございました。

<参考資料>文化新聞及び他資料より活性化へのキー洗い出し

- ・暮らしを楽しむ ・農家の知恵袋 ・先人達の功績 ・郷土愛
- ・観光スポット(寺社・神社)地図 ・ようこそ原市場へ(西川材看板)
- ・地域コミュニティー ・飯能らしさを生かしたまちづくり
- ・いきいき働く場所 ・ランチ・ドリンク ・バーベキュー ・川あそび
- ・特産品 田舎まんじゅう/餅大根、きな粉餅、あんころ餅、田舎うどん
ユズピール、ユズママレード、ユズ酒、梅酒、柿酒、芋料理
- ・古民家 ・名栗川 ・森林浴 ・エコツアー ・観光ウォーキング
- ・山間地域で農を楽しむ ・山間地食材 イノシシ料理、鹿肉料理
- ・新鮮野菜 ・新野菜 ・若者アート ・多目的広場
- ・原市場の花木 ・家庭菜園 ・さつま芋掘り ・遊休地活用
- ・ザバミ景色 ・健康ウォーキング ・まちおこし
- ・食文化(麦、うどん、地場野菜栽培)・水車(脱穀)

<参考>原市場活性化について

平成26年度 原市場地区市長ワクワク座談会、グループワークのまとめ抜粋

- ・原市場の良さを話し合う場が重要と認識出来た。
- ・行政との関わりをどのように持つかが大切であり実行できる事は取り組みむ
- ・ホームページの大切さが、広報活動として役立てていきたい。
- ・他方から来た人は杉などが多く緑が濃すぎて暗い感じがするという。
- ・山の山頂や尾根は落葉樹に替えて明るい山にするとよい。
- ・飯能から多くのことが他県に発信されるといいと思う。
- ・飯能の良さをもっともっとアピールしてほしい。
- ・人口減少で税収が少なくなり行政に頼るのは難しい。
- ・出来ることは地元でやらなければならない。
- ・動ける人はいつまでも地域に関わってほしい、もっとPRして人を集める。
- ・住むにはとても住みやすい。自然に恵まれ、四季折々の季節を楽しむ。

テーマ 子育てしやすい地域にするには？

- ・原市場子育て支援拠点「いるかひろば」が原小空き教室を使用して活動。
- ・若いお母さんや子供達の活動に年配者が入り教えてあげられる場が大切。
- ・赤沢ふれあいステーションをつき1回赤沢会館で行っている、そのような活動を各地域で出来るとよい。
- ・子育てしやすくするには・・・
- ・公園など谷貝で集う場所がない、山や川など自然を利用できればよいが。
- ・親に自然を体験させる機会を提供するのも大切・・・子供も遊ばせられない。

- ・自治会を主にして、地区リーダーが必要、各地区自治会館を利用。
 - ・声掛け・・・年配者と若い世代とに壁があるよう。
 - ・山や川での遊び方を教えてくれたり畑と一緒に親子で野菜作り。
(地域の方と生活を楽しみたい)
 - ・山や川に慣れていない親が増えている、親に自然を体験する機会を提供する。
 - ・高齢者が元気に過ごすために“いどばた”を作りみんなが集まる場所を作る
- テーマ 働く場所を増やすには？通勤しやすい地域にするには？
- ・地域活性、地域を生かす(緑と清流)
 - ・お年寄りのパワーを感じる、活用する。
 - ・企業誘致は子育て、介護でしぼられるので在宅(テレワーク)へ
 - ・活動拠点が必要、中学校が良い。
 - ・飯能のイメージ、遠足・緑と清流、都会から近い、地元の産業道の駅あれば
 - ・定年になった人達を生かす、高齢者 NPO を立ち上げる。
 - ・自然を利用する、遊歩道を作りウォーキングなどのお客を呼ぶ、土産を売る。
 - ・山の管理を NPO にまかせる、働く場所を生みだしていく。
 - ・高齢者が輝く、長生きする
 - ・沢をきれいにする、間伐材、林道整備
 - ・遊歩道「道の駅」テーマは「木」 大学生を活用して」 NPO を立ち上げる。
 - ・空き家が多くなってきた、介護、自然を生かし施設を誘致する
 - ・地域の特性を生かす、欠点を直す、内からの活性化。高齢者パワー
 - ・原市場は通過点、何か目玉を、山の利用(木製品、木の家)仕事にできないか。
 - ・介護施設の誘致、他地域からの入所、雇用の創出。
 - ・自然と人が生かされる、山の管理、雇用創出。
 - ・林業、生かされていない(使ってもらう、働く場所とする)
 - ・高齢者にやさしい街
 - ・古民家や空き学級の活用、
- テーマ 原市場の自慢、誇りって何？
- ・飯能市転居 20 年自然が多い、家が安い、周りは杉だらけだが。
 - ・転居 20 年 自然(清流)川が汚かったがきれいになった(浄化推進)
30 年 静か、空気がきれい、水が旨い、釣ができる・
 - ・四季の変化があり、景色がよい。
 - ・積極的な人材が多い、優秀な人材を掘り起こしていく。
 - ・コミュニケーションの場、機会が多い。
 - ・人(地域)の力、子供の見守り
 - ・動物たち、自然豊かさとしてアピールしたらどうか。
 - ・紅葉(黄葉)、新緑がきれい

- ・流れ橋(生活に便利)、ウォーキングポイントとして活用。
- ・山や川を活用した体験教室の実施。足、アクアセスを確保。
- ・自然が多い、動物、鳥、川・・・ホタル、アユ、山・・・紅葉、黄葉、新緑。
- ・いるかの広場を他地区の人に知ってもらいたい。
- ・いきいきまつり、まちづくり、名栗川朝市
- ・花のあるまちづくりに積極的、とても良い。
- ・情報を皆が共有するとよい。
- ・ホームページ活用。
- ・地域住民の話し合いが多い。
- ・中藤祭り、芋煮会が盛大。
- ・原市場の人達は明るく、親切に接してくれる、近所づきあい。

テーマ 高齢者が元気で輝く老後を送るには

- ・健康について、参加してもらうにはご褒美があるとよい。
 - ・自分で参加できる様にする。
 - ・自治会館などで集まる場を作る。公園など集まる所がほしい。
 - ・サークル(歌の会など)に参加することが必要でないか。
 - ・出前サークルが各自治会をまわる。
 - ・野菜作りをテーマに集まる場所を作れる(実際に始めている)
 - ・井戸端のような場が必要(たまり場)、町中塾のようなものも考えられる。
 - ・音頭を取る人がいないと立ち上がらない(リーダーが必要)
 - ・隣近所2~3人でもグループができれば元気になる。
 - ・自治会が主導すべきではないか。
 - ・体操を高齢者サロンでやりたいが、指導者がいない。
 - ・高齢者ができる簡単な「ワクワク体操」のような物を作ってはどうか。
 - ・色々な場に出てくるように仕向けることが必要
 - ・買物難民のサポート。
 - ・高齢者は昔話しをする時がいきいきする。色々な知識を持っている。
 - ・子育て、買物難民について地域でサポートできないか。
 - ・「生きがい」、自分の存在感を感じる(自分の役割を考える)
- 高齢者の知識、知恵、技術を生かす・・・例えば林業などの知識、昔からの食材の使い方(お話を記録に残す)

以上